



写真4 会議風景

遙かなる島、テネリフェ

2年に一度のIPSミーティング、

今回は、今年の3月23日から26日までの4日間、スペイン領カナリア諸島のテネリフェ島で行なわれた。

カナリア諸島は北アフリカ、モロッコ西の大西洋に浮かぶ島々。大西洋のハワイとも称され、欧洲にとつてはポピュラーなリゾート地。15世紀にはスペイン領となり、旧都のラグーナは世界遺産に登録されて



近畿大学
講師 奥山 幸子

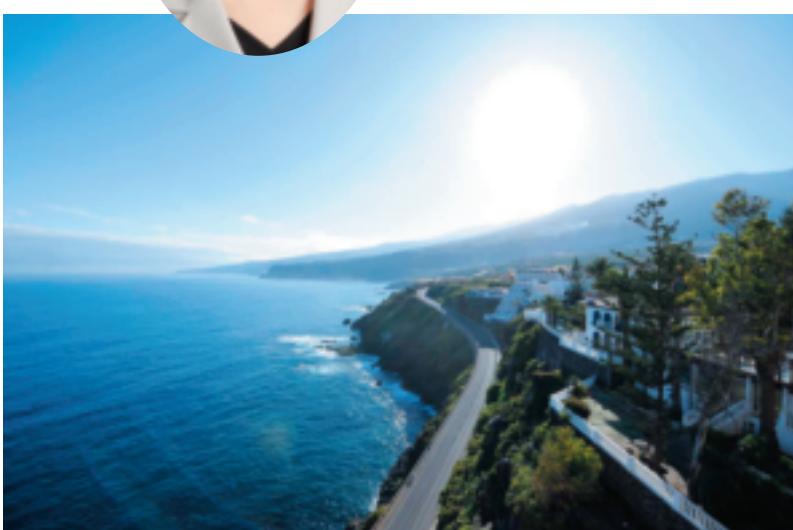


写真1 ホテルからの風景

いる。日本の遠洋漁業基地もあるが、昨今はマグロ捕獲問題などでちょっと複雑とか。

テネリフェ島は、カナリア諸島最大の島。島の中央には富士山とほぼ同じ高さのスペインの最高峰、ティデ山(3,718メートル)が聳える。海岸部は1年を通じて20度前後と温暖な気候。また、2月のカーニバルは有名らしく、行き帰りの機内誌では特集が掲載されていた。日本からは飛行機を乗り継ぎ、途中1泊して2日目

の午後によくやく到着。やはり、遠い。仕事でもなければ来なかつたけれど、仕事ではなく来たい島。

名を改めた—IPS



写真2 ウエルカムパーティー
マイク脇の本学会会長（左）と新President、
前列右から2人目が前Presidentの先生方

朝から晩まで、—IPS

IPSミーティングでは、皆一緒に動くことが多い。口頭発表会場は、英語のMoorfields Eye Hospitalから朝岡亮先生と、留学されている鹿児島大学の山下高明先生が参加されていました。年度末かつ遠方での開催とあって、日本からの参加がいつもより少なかつたのは残念。

プログラムでは、形態に関するセッションが組まれたことが、改称後の具体的な変化。新生IPSの認知度はまだ低く、今後は画像関連の演題が増えるのでは。

受け付けと ウエルカムパーティー

学会用バッグは、本学会会長の奥様が執筆された家庭料理本、アトラクション施設「ロロパーク」の入場券とロゴ入りの帽子付き。

海沿いのホテルから（写真1）、せっかくなので散策へ。白壁にオレンジ色の瓦屋根の家々、ヤシの街路樹、鮮やかな花々。しかし、さすがに3000メートル級の火山島は坂が多い。黒い岩の峡谷や崖に阻まれ、近くに見えても遠回り。足が痛い。

Sの略称を残すべく、Imaging and Perimetry Societyの名称を変更。今回は改称しての初のミーティングとなる。

前回の奈良での開催にあたりましては、多くの日本の先生方にご協力ご参加いただきましたことを、スタッフの一員として、改めて感謝申し上げます。

今回の登録会員数は新規の登録はあつたものの、奈良開催時の174人から150人と若干減少。日本からは近畿大学の9人と、山梨大学から飯島裕幸教授、川崎医療福祉大学から可児一孝前教授と丹沢慶一先生が参加。ほかに日本人ドクターとして

一つのみ。皆が集い、ポスター発表でもスライドを用いて簡潔な口頭発表をして質疑応答がある。また、登録費には食事の多くやツアーフィー代金が含まれている。初日は理事会と受け付け、夜は立食のウエルカムパーティー。実質的に学会が始まる2日目以降は、昼食はすべて込みで、朝食付きセミナーも2回ある。2日目夜はディナー込みの、その土地らしい趣向の催しがあり、別料金だが、ほとんどの方が参加。3日目午後は全員でツアーハ。4日目夜はパンケット。食事と歌で大いに盛り上がり、食事と歌で大いに盛り上がり、フィナーレ。これが恒例。

では、今回は…。

初日



写真5 オプショナルディナーの館



写真3 食事会場でのセミナー

日も傾き、送迎バスで少し離れた海辺のパーティー会場へ。ギター演奏で歌に興じ(写真2)、戸外で夜景を眺めながらスナックとワイン片手に話に興じる。バスが出るまでは帰れない。

2日目

終日会議と オプショナルディナー

食事会場での朝食とセミナーに始まる(写真3)。本会議場へ移動し、学会会長の Manuel Gonzalez de la Rosa先生の開会挨拶の後、午前中は「構造と機能の関係」のセッションが二つ。緑内障関連の演題が多いが、網膜前膜や網膜色素変性の演題も。

その後に Richard Pence Mills 先生による IPS レクチャー「緑内障スクリーニングの最先端」があり、この日は緑内障色が強く、昼食とセミナー後の「視野と視神経乳頭所見の進行検行」のセッションも緑内障の進行検査に関する演題。次の「動的、瞳孔」のセッションでは、自動・半自動動的視野測定と瞳孔視野測定の基礎から臨床に及ぶ研究報告が並んだ(写真4)。

オプショナルディナーでは、歴史的地区を散策し、コロニアル様式の館で食事と地元ミュージシャンの演

奏を楽しむ(写真5)。異国情緒と美味なワイン。でも、日本の先生方は時差で眠そう。

3日目

会議と 食事付きバスツアー

朝食とセミナー。続いて「形態・fMRI」のセッション。三次元画像解析データの比較や再現性、分類法、解析法などの演題が並び、新生IPSを感じる。Aulhorn レクチャーは Jose Luis Gonzalez Mora 先生による「耳で見る：聴覚を代用した視野の知覚」を拝聴。日本では触覚を代用するシステムが開発されている。障害の重い患者さんへの情報として知つておきたい。次の「カナリア大望遠鏡」の講演は、2009年に完成したカナリア諸島のラ・パ



写真6 IPSケーキ



写真7 テイデ山を背に全員で

ルマ島にある世界最大の分割鏡（直径10・4メートル）を有する光学望遠鏡の設計に携わられた物理学者、Pedro Alvarez先生のお話。かつて本学会会長と自動視野計の共同開発もされたとか。光学的興味と知的好奇心をそそられる。

午後は、人気レストランでの昼食



写真8 故北原健二先生を偲んで

とテイデ国立公園と天文台を巡るバツツア。昼食では大きなIPSケイキが（写真6）。フルーツを赤ワインで割ったサングリアは本場では普段の飲み物。とても飲みやすくて…、注意、注意。テイデ国立公園は世界自然遺産の一つ。海岸から50キロ足らずで2000メートルの山腹に。欧州各国

スツア。IPSケイキが（写真6）。フルーツを赤ワインで割ったサングリアは本場では普段の飲み物。とても飲みやすくて…、注意、注意。テイデ国立公園は世界自然遺産の一つ。海岸から50キロ足らずで2000メートルの山腹に。欧州各国

とうとう最終日。初めのセッションは「角膜・網膜・その他」で、角膜（？）の演題は糖尿病末梢神経症の指標に角膜内神経叢の構造（HRT）を用いた画像）と機能（知覚）検査が使えるというもの。画像の切り口から、IPSが扱うテーマは今後、どこまで広がる（広げようとする）のか。その後の演題は三つの「視野データの評価」のセッションを含め、視野の演題が並び、IPSらしく閉会へ。

この日は昼食前にビジネスミーティングがあった。Vice Presidentの松本長太教授が日本視野研究会の前会長で東京慈恵会医科大学名誉教授であられた故北原健二先生を偲ぶスピーチをされ（写真8）、全員で黙祷を捧げた。また、任期満了による新たなPresidentにChris Johnson先生が選ばれ、次回のIPSはオーストラリアのメルボルンでの開催が決定した。

の天文台が並ぶ。海辺は温暖でも、山に登れば寒い。美しくも荒涼とした風景を眺め、ロッジでお茶を頂き、散策（写真7）。空気が澄み、夕焼けと天上的月が美しい。

最終日

終日会議、そしてバンケット

皆様！ IPSは、今や視野だけの学会ではありません。視野なら、基礎はもとより、臨床ならば緑内障のみならず網膜や神経眼科疾患まで幅広く、画像からなら、対象はより広範囲かも。

皆様！ IPSは、今や視野だけの学会ではありません。視野なら、基礎はもとより、臨床ならば緑内障のみならず網膜や神経眼科疾患まで幅広く、画像からなら、対象はより広範囲かも。



写真9 書道のパフォーマンス

次回のIPSは、2012年1月22日から25日までオーストラリアのメルボルンで開催されます。半年前には抄録のご用意を！ そして、ぜひ一緒に！



写真10 踊るIPS